（アルバータ大学　レターヘッド）
2019 年 1 月 10 日

中国での良心の囚人からの強制臓器収奪に関する独立法廷　議長
ジェフリー・ナイス卿　殿

中国での膵島細胞移植への協力に関して、カナダ、エドモントンのアルバータ大学の立場を表明する機会を与えてくださってありがとうございます。

アルバータ大学の膵島移植臨床プログラムの理事、移植手術と再生医療のティア 1（第一層）カナダ研究委員長を務めています。私は、不安定な 1 型糖尿病患者の肝臓に、ヒトの膵島を移植するためのエドモントン規定（Edomonton Protocol）の発展をさせたリード調査者でした。2000 年「ニューイングランド医学誌」（New England Journal of Medicine）に最初の 7 名の患者に関して、発表しました。以来、エドモントンで 300 名近くの患者を治療し、国際的には最高 2000 名の患者が、2000 年以降、エドモントン規定に相違した形で同様の治療を受けました。移植した膵島はカナダ全域のドナーによるもので、予期せぬ死を迎える前に臓器提供を申し出た人々からのものでした。家族にも連絡しており、逝去された方の家族からも書面による臓器提供の合意を得ています。カナダの全ての省が設定し、ヘルスカナダおよびカナダ血液・移植サービスが実証する、一般に受け入れられた倫理基準に則る臓器提供です。ドナーには神経学的判定(NDD)と 心停止（DCD）の脳死者も含まれます。

2017 年、浙江大学第四附属医院から、科学者と臨床医の養成を手伝わないかという要請を受けました。糖尿病患者のインスリンを生成する細胞を治療するために、ドナーから摘出した膵島を移植する臨床プログラムを、同医院が設置するためのものでした。私が提案したものではなく、アルバータ大学の医学部長・外科主任を通して持ち込まれた話でした。アルバータ大学の代表団が浙江大学第一附属医院の院長とそのチームを訪問しました。私はその代表団には加わりませんでした。その後、膵島摘出とレシピエントの臨床ケアのために科学者と医師を養成するように私に申し入れがありました。浙江大学第一附属医院の院長は 2017 年にエドモントンを訪問しています。

浙江大学第一附属医院は当時、そして現在でも、「強制臓器収奪」に積極的に関わっている可能性が高いことを（ガーディアン紙の報道、英国医療協会 BMI の報告書、2017 年の学術誌 Liver International からの論文撤回から）見出しました。入手できるデータに基づき、浙江大学第四附属医院が入手し続けている臓器の数が、この地域からの臓器提供の見込み率を遥かに超えていること、そして、臓器源は第一附属病院のドナー備蓄と重なっていることを、私は懸念しました。このため、少なくとも提供

された膵臓のほとんどは、強制臓器収奪を出処とするものであり続ける可能性がかなり高いという懸念は自分の中で払拭できませんでした。中国での臓器提供は（コンピュータ化された登録制度と、臓器収奪を禁じる新しい法規を以て）変革されたはずですが、2016 年 6 月の米国議会での広域にわたる公聴会から、臓器収奪は中国国内で野放しで行われ続けていることは明確でした (https://www.youtube.com/watch?v=fXXihdjo_jo)。さらに中国の臓器提供の査定に関わった WHO の代表者でもある専門家、国際移植学会の元会長（フランク・デルモニコ教授）と、法輪功学習者からの臓器収奪についてのキルガー＝マタス報告書の著者、デービッド・マタス氏とコミュニケーションをとりました。両者ともこの分野で継続する懸念を示されました。

アルバータにいる我々には、第四附属病院での臓器提供において、膵島分離のために用いられる臓器が 1 つ残らず非倫理的な臓器を出処にしないと確証する監視能力がないことが、明白となりました。非倫理的な臓器収奪が積極的に行われている国で、アルバータの移植医たちが加担・養成・移植の援助をしてしまう可能性を私は感じました。非倫理的行為であり、カナダの私達の倫理的移植プログラムに深刻な影響を与えかねないことであります。このため、臨床膵島移植プログラムでは、医学部長・外科主任の養成には従わない選択をし、浙江大学第四附属病院とは、臨床での移植科学が関わる分野では一切、共同で作業することを拒否しました。アルバータ大学では、一般外科の分野では養成・教育分野での共同作業を続けてきましたが、私の知る限りでは、移植外科および研究の関わる一切の分野での共同作業は行っていません。

私の決断は、又聞きの証拠に基づくものです。中国での現在の移植手術に関して直接の知識があるように見せかけるつもりはありません。証拠の重大性に深く懸念し、知っていても知らなくても、この倫理基準を超えることは個人的に正当化できないと感じました。

この手紙と証言がジェフリー卿の率いられる一団にとって有益であると信じます。この問題に関する貴団の国際的な貢献を支持いたします。さらに、一般の認識による圧力により、中国の高官が現行の行為を変え、中国での移植手術が国際的に認められている倫理的基準に見合うように望んでおります。

敬具

アルバータ大学　医学・外科腫瘍学　外科担当教授
A.M.ジェームズ・シャピロ